

No. 489【2022年1月14日配信】  
青森工業高校の校地の変遷 (担当:村上亜弥)

こんにちは。歴史資料室の村上です。

1月13日から新しい館内展示「学び舎の思い出—学校旧跡めぐり」が始まりました(展示期間は4月12日まで)。この展示では市内にある学校の歴史をさまざまな角度からひもといています。今回はこの展示の中から県立青森工業高校の校地の変遷をご紹介します。



菫町にあった工芸学校  
(1922年「青森新市街図」より)

青森工業高校の前身である市立工業徒弟学校は大正2年(1913)、現在の菫町小学校附近に開校しました。大正6年には校名を市立工芸学校と改称しました。

大正11年、隣接する場所に菫町尋常小学校(現菫町小学校)が開校すると、児童数増加に伴って、工芸学校の校舎の一部を菫町尋常小学校が使用するようになりました。そのため、工芸学校は大正13年に最初の移転を行うことになりました。移転先となったのは橋本尋常小学校(現橋本小学校)に隣接する場所で、旧青森市公会堂の建物を移築し、校舎として利用しました。

しかし、青森市は昭和6年(1931)に工芸学校の校舎を市立実科高等女学校(現青森中央高校)の校舎として使用することを決め、工芸学校は二度目の移転を行うことになりました。当初、市は造道尋常小学校(現造道小学校)を閉校してその校舎に工芸学校を移すという計画を立てましたが、造道尋常小学校に子どもを通学させている浜館村の住民から反対の声があがり、計画は白紙となりました。

最終的に工芸学校の移転先には篠田地区が選ばれ、昭和6年10月に新校舎へ移転しました。この校舎は昭和20年の空襲で焼失を免れ、戦後も増築を重ねて使用されました。なお、昭和13年には市から県への移管が行われて校名が県立青森工業学校となり、昭和23年には学制改革により県立青森工業高校と改称しています。



昭和20年代後半の青森工業高校  
(『復興した新しい青森』  
青森市政研究社 1954年)

その後、昭和 43 年に新校舎が完成しますが、平成 9 年（1997）の耐震診断で改築の必要があると診断され、移転が検討されました。そして、平成 19 年度から馬屋尻地区で校舎の新築工事が始まり、平成 23 年に三度目の移転を行いました。

篠田地区の学校跡地は整地され、住宅地となりましたが、工業高校の前庭の一部が緑地として残っており、その一角にある「青工高学舎跡地」の碑（平成 28 年建立）が学校の歴史を伝えています。



青工高学舎跡地の碑

※今回の内容は『青工百年史』（青森県立青森工業高等学校創立百周年記念事業協賛会 2013 年）、『青工高同窓会報』第 60 号（青森県立青森工業高等学校同窓会 2016 年）などを参考にしています。